

5 青少年教育指導者等の養成及び資質の向上に関する事業

ア 青少年指導等の養成・研修事業

b その他

「体験教育・アドベンチャー教育」の手法による“仲間づくり”
チームマネジメント力向上のための研修会
～小学生期における理想のチーム作り～

〔主催〕 国立諫早青少年自然の家

〔期日〕 令和6年1月28日(日) 9:30 ～ 16:30 日帰り

〔会場〕 国立諫早青少年自然の家 〔参加者〕 小学生のスポーツ指導に関わっている方、保護者
22名(男性11名、女性11名)

〔講師〕 門田 卓史氏(株式会社 edu-activators代表取締役)

毛利 千鶴氏(管理栄養士。公認スポーツ栄養士)

〔担当職員〕 中里 文彦、小野 栄策

1)趣旨

グループの力を生かす体験活動プログラムの体験を通して、基本となる手法や理論の習得を図ります。
(特にスポーツ指導やスポーツ活動する子供に関わる大人を対象とします)

2)SDGsで目指す姿

		目標4 質の高い教育をみんなに 仲間と協力する活動を通して、安全・安心な学習環境づくりの指導方法を学ぶ。 目標16 平和と公正をすべての人に 仲間と協力する活動を通して、参加型の意思決定を支援する指導方法を学ぶ。
---	---	---

3)目標

- ①モデルチームが取り組んでいる「I-CAP」について知る、理解する。
- ②チームの作り方・在り方、ファシリテーションについて学ぶ。

4)プログラム

1日目
9:30 開講式
9:40 研修会概要説明、参加者体験活動、モデルチーム活動見学【写真①②】
12:00 昼食
13:00 講義「小学生期における理想のチーム作り」【写真③】
14:00 講義「食事の大切さについて考えよう」【写真④】
16:15 閉講式

5)事業展開

①「参加者体験活動(I-CAP)」



参加者が、子供達が取り組んでいる「I-CAP」を実際に体験した。

②「モデルチーム活動見学(I-CAP)」



モデルチームが実際に行っている「I-CAP」を見学した。

③講義「小学生期における理想のチーム作り」



門田氏による講義を参加者が受講し、チームの作り方・在り方、ファシリテーションについて学んだ。

④講義「食事の大切さについて考えよう」



毛利氏による講義を参加者やモデルチームが受講し、食事や睡眠の大切さを学んだ。

6)評価

①アンケート結果(事業全体に対する満足度)

満足	やや満足	やや不満	不満
90%	10%	0%	0%

②参加者の声

- ・実際にI-CAPをしている様子も見られ、門田氏による理論も聞け、大きな学びとなった。
- ・とても分かりやすく、保護者として指導者としての考え方、伝え方がよく分かった。
- ・分かっているつもりが多かったことに気付いた。チームはもちろん、仕事に当てはまることが多かった。
- ・子ども達への接し方、成長への導き方が理解できた。

7)成果と課題

①成果

- ・参加者が「I-CAP」を体験したり、モデルチームの取組みを見学したりしたことで、その有効性を理解し、継続して取り組ませたいとの声が多く聞かれた。
- ・チームの作り方・在り方、ファシリテーションについて参加者同士が考え、意見交換をすることができた。

②課題

- ・参加者の多くがモデルチームの指導者や保護者だったので、さらに多くの人に参加できるように内容や広報の方法を考えていく。
- ・スポーツ指導におけるI-CAPの有効性を広めていく。